
炭素の魚

朔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

炭素の魚

【コード】

N5772Q

【作者名】

朔

【あらすじ】

「ぼく」と「彼女」の日常的な風景。 作品にまつわる一風景。

彼女の美しさに惹かれて

ぼくは無心にデッサンを始める

画用紙にシャープペン（HB）

を持ってまめができるほどに力強くそれを握る

彼女は大阪弁で喋る

小説家とは何だろうかということについて

彼女は詩人だというのに

けれどもなぜか違和感がない、ぼくの色眼鏡が狂っているのだろうか

目と鼻の先で彼女が喋り倒している

ぼくは無心で（けれども注意を払って）描きすすめる

大阪弁が（改行）紙に（改行）しみ込んでいくぬれていくまみれていく

2

彼女は過去について話し始めた

処女作について、あるいは二作目について

処女という響きは素敵や、といった

初々しさをしたためたんやわ

静かにそういつて、それから黙った

処女作から好きなフレイズを画用紙に書き込んだ

HBの濃さで書かれたそれはあまりにも陳腐だった

本の中でしか生きられない魚を

ぼくは別のところで育てようとしたからかもしれない（推定）

溺れた魚は 決して生き返ることはない

ひととおり描き終えた画用紙には
まるで別人が映っていた
言葉の魚と同じように、ひともきつと紙の中では溺れてしまふ
紙の中では、溺れてしまつてなんら表情のない彼女が
浮かんでいる

彼女が目の前で涎を垂らして眠り込んでいる

ぼくはその画用紙の裏で乱暴に彼女のそれをぬぐつた

彼女はすこしうなつた

紙の質の悪さが彼女の白にかすかに赤を落とした 綺麗

ぼくはそれをごみ箱に向けて放り投げた（入る音）

ごみ箱の中で炭素のはじける音がした

かすかに

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5772q/>

炭素の魚

2011年2月1日23時48分発行